

ジャララバード北部に難民集中

マルワリード II、冬期工事目標達成へ ガンベリ排水路は夏までに完了確実

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

送還難民の激増

今年になってから突然の降雨が続き、当面干ばつは和らぎました。

だがジャララバード（ナンガラハル州）は、現在最悪の時を経過しています。日本で報道がないので、伝わってないだけです。政治集団以外にも、犯罪集団の動きが活発となり、市内も統制がきかなくなりつつあります。昨秋、100万人を超える難民がパキスタンから強制送還され、ジャララバードは大混雑に陥りました。冬の到来で送還が中断したものの、今春、間もなく再開されます。この中でPMSは自治会と結んで防衛を強化、地域の生存をかけて全力を投入しています。

まさかこれ程だとは思いませんでした。パキスタンからの送還難民に加え、スピンガル山麓方面（アチン郡、ロダト郡、エサラク郡ら）は荒廃して居住環境も治安も悪く、多くの者がジャララバード北部へ逃れてきます。少なくともここには安定した農地があり、食べ物があり、水があり、爆破事件が少なく、贅沢を言わなければ少なからず職にありつけるからです。北部4郡の作業地がなければ、ジャララバードは大混乱で手がつけられない状態になっただろうと、囁かれています。

私たちの作業地が混乱を回避する防波堤になっているのは事実で、ますます重要性を増しています。至る所で、村落の人口が二倍、三倍と、爆発的に

増え、国道クナール線は「バザール街道」となって雑踏があちこちに出現、ガンベリ沙漠・マルワリード用水路付近にも、3000家族の難民コロニーが生まれ、数を増しています。国連関係によれば、帰還難民の70%がナンガラハル州出身だそうです。

新局面へ向けた動き

先日の理事会でもこのことを訴えた積りでしたが、率直なところ、当方の説明不足もあって、現状認識に大きな壁があると感じました。**今が最も支援が必要な時だと再度強調します。**地元民はどこに逃げるあてもなく、この状態でも生き延びなければなりません。これを見捨てるか、多少の労苦を伴っても力を尽くすか、選択は夫々の自由ですが、慌てて事業を切り上げるのは論外だと小生は判断しています。安全や政情への配慮は当たり前で、時には死守すべき、道義上の局面と人間としての誇りがあります。

しかし、それほどリスクを懸けなくとも、日本側で協力できることは沢山あるのです。計画は既に次の段階に入り、「PMS 20年体制確立」に向け、ジャララバード事務所は必至の覚悟で動いております。事情を理解するJICAやFAOのアフガン事務所も、夫々の立場で、惜しまず協力をしてくれ

ています。仕事量は半端ではないので、少しでも現地の負担を減らすべく、後ろ向きの考えに惑わされず、具体的な局面でのご協力をお願い申し上げます。

各事業の進行

さて、パキスタン国内で多発する爆破事件を受け、トルハム国境が閉鎖され、2週間が過ぎました。ジャララバードは建築資材の流通が滞っていますが、事務所の機転でセメント 6000 袋を速やかに確保し、今のところ作業全体に大きな影響は出ていません。

マルワリード II 取水堰は仮工事完了、主幹水路 1 kmを開通、現在カチャラ村・コーティ村灌漑路の整備と、沈砂池の最後の詰めの工事が行われています。今年度は諸情勢に鑑み、異例の速さで工事が進められました。このため、極度の疲労で一時は虚脱状態に陥りましたが、現在、態勢を立て直し、春の訪れに伴って緊急となった護岸工事に力を注いでいます。また、なるべく人海戦術を採用し、雇用機会を増やすよう配慮しています。

ガンベリ排水路は 1,787m 中 1,630mを開通、あと少しです。今夏までには記念碑的な「マルワリード用水路事業完了」を祝えます。**ガンベリ農場**では、ミカンの接ぎ木数千本が 1ヘクタールの土地で試みられ、4年後の出荷を目指しています。今冬小麦の作付けが 20ヘクタールを超え、職員の自給を達

成しています。ナツメヤシ 500 本はトルハム国境の閉鎖で足止めを食らっていますが、開通次第移植が行われます。

ミラーン訓練所は一階部分を終え、洪水防御壁の造成が行われています。これも夏までには居住可能になると予測しています。これに関連した「教材」も急がれますので、宜しく願い申し上げます。

JICA=PMS 共同調査については、4月に発足予定で、事業の成果を確認し、先の展開につなげようとするものです。PMS としては、併せて水理学的調査をも行い、以後の設計を容易にしようとしています。詳しくは改めて紹介しますが、これも重要な局面の一つなので、ご協力を宜しく願い申し上げます。

全体に PMS の力量は飛躍的に上がっており、不得手な事務作業も以前よりは遥かに整ってきています。「長期継続・20年体制」へ向け、着々と内部改善が進められています。詳しくは、折に触れ、ご紹介いたします。

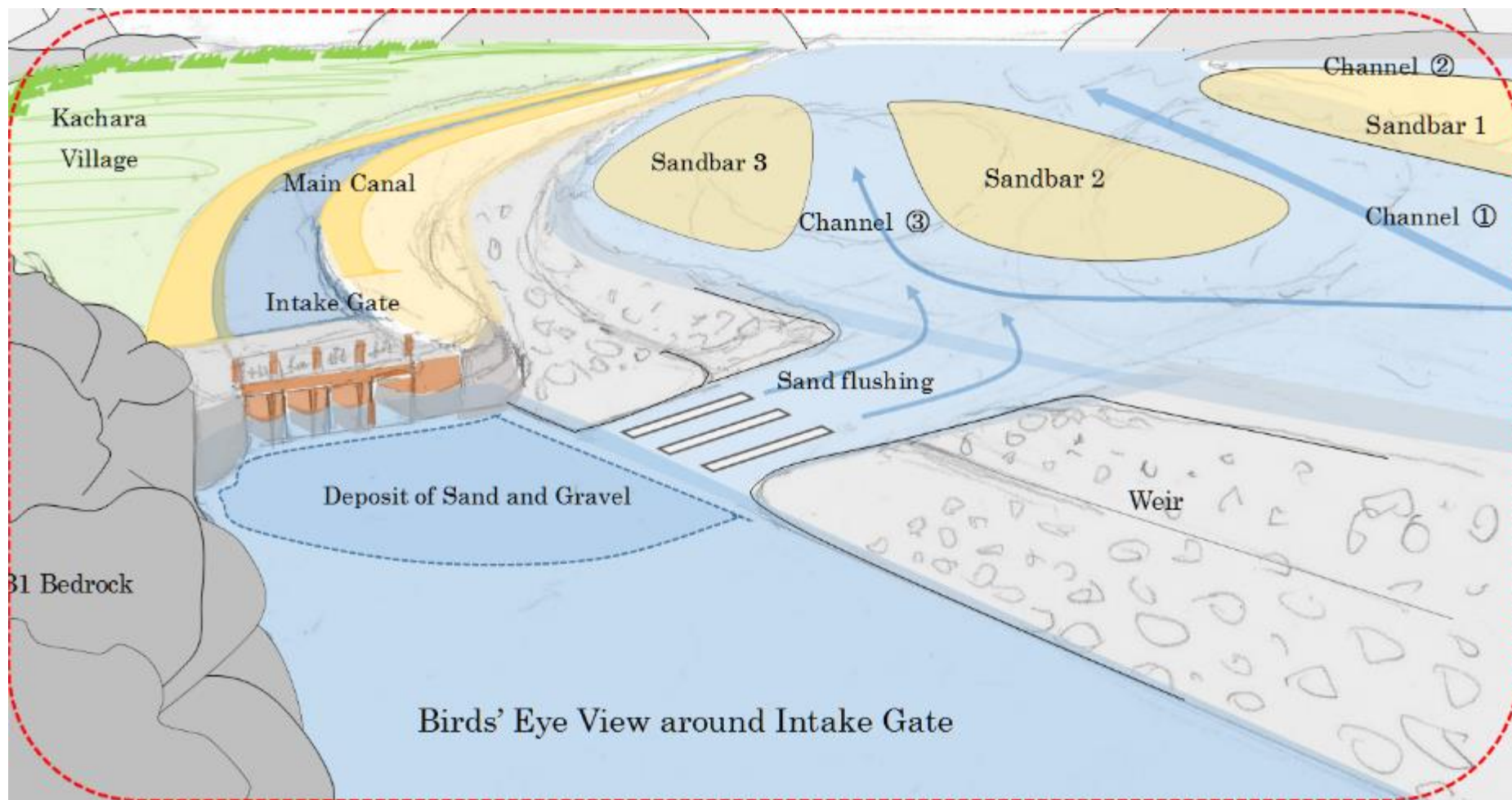
以上のように、私たちを取り巻く事業環境と目標設定は、一昔前から一変しております。新しい酒は新しい革袋に入れなければなりません。ペシャワール会事務局もそれに合わせ、業務態勢をさらに強化、力を尽くされることを切にお願い申し上げます。 みなさん、お元気で。

平成 29 年 3 月 3 日 記

仮工事を終えたMII（マルワリードII）堰と取水門。2017年2月25日



鳥瞰図はとうとう直す時間はありませんでしたが、作業員や現場監督の理解を得るには十分でした。
おおよそ考え通りにはできたと思います。



上流から沈砂池側を望む。護岸は 50mごとに水制（長さ 15～20m）を置き、洪水による洗掘を防止する。万一溢水が起きても、浅い流れが用水路を越えて、洪水流が半減、大被害に至らない。2017年2月25日



取水堰を下流から望む。2017年2月25日



建設中の取水門から堰を望む。機能的には、MII堰が山田堰に最も近いものになっている。(動画あり) 2017年3月2日



固定堰を対岸から望む。堰長を長くとり、安定して見える。2017年2月25日（ガイヌッラー職員撮影）



土砂吐き（部分可動堰）。河の水量はやや増しているが、水位は殆ど変動がない。2017年2月26日



取水門下流側とカチャラ分水路。2017年2月26日



カチャラ分水門。最大 2.0 m³/秒まで供給できる。実際にはそんなに要らない。2017 年 2 月 26 日



カチャラ分水路Iは沈砂池を経ないので、土砂が流入しやすい。壁を設けて堰上げ、土砂を壁のスリット状の溝から排出、かつ流入部床面を15 cm高くしている。原理は堰の砂利吐きに同じ。(動画あり) 2017年2月26日



130m進んで既存水路へつながる。冬期の最大水量は、以前の5倍以上になっているので広範囲の灌漑が可能になっている。また、夏期は水量が調整でき、不測の洪水流入を免れるようになった。2017年2月26日



主幹水路の現在。水路壁ふとん籠 2 段目が始められている。この後を柳枝工が追いかけるが、作業員の主力が沈砂池方面に集中、植樹がやや遅れている。
2017 年 2 月 27 日

